

世界へはばたけ!

平和への思い



平和祈念像

戦争のない未来めざして 大空へ

平成21年8月9日、長崎は64回目の「原爆の日」を迎えました。全国から集まったおやこ記者9組18名は、長崎の平和への取り組みを全国に広めるため、取材活動を行いました。

式典の司会は高校生!!

大役終え「ホツとした…」

9日、被爆64周年平和祈念式典の司会を担当した、長崎県立長崎東高等学校2年の八坂裕太さんと布施晴香さんに、どうして司会をやろうと思ったのかを聞きました。お二人とも「先生に頼まれて」ということでした。「初めはおどろいたけど光栄に思いました」と八坂さん。「一生に一度なので引き受けました。」と布施さん。



司会の布施さん(左)と八坂さん

最後に、やり終えた感想を聞いてみました。お二人とも「練習がうまくいかず、つらかったけど無事にできてホツとしている」との事でした。「緊張していた」



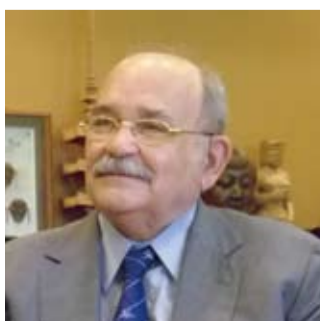
式典を終えほっとした表情の二人

ともおっしやっています。が、とても上手に司会をさられていて、きつとたくさん練習をしたんだろうなと思いました。

【田頭慎平・浩美記者】

【沖本成美・恭子記者】

私たちのような家族が平和のためにできることを尋ねると、世界中が自己中心という悪い病気にかかっている。私たちは兄弟姉妹であり、愛と思いやり、人のつながりを大事にした生き方をしてほしいということでした。私たちがだけではむずかしいけど、みんなで力を合わせれば、世界が平和になると思います。



ミゲル・デスコット・ブロックマン 第63回国連総会議長

実際に会ってみると、白いおひげに大きなおなかで「サンタ」さんのようなやさしい人でした。国連総会のデスコト議長にインタビュしました。とても偉い人と母から聞いて、きんちようしました。が、英語であいさつしようと思つて、一生けん命練習しました。

世界が平和であるように!!

「サンタ」さんをお願い

にインタビュしました。

とても偉い人と母から聞いて、きんちようしました。

が、英語であいさつしようと思つて、一生けん命練習しました。

実際に会ってみると、白いおひげに大きなおなかで「サンタ」さんのようなやさしい人でした。

国連総会のデスコト議長にインタビュしました。

とても偉い人と母から聞いて、きんちようしました。

が、英語であいさつしようと思つて、一生けん命練習しました。

実際に会ってみると、白いおひげに大きなおなかで「サンタ」さんのようなやさしい人でした。

国連総会のデスコト議長にインタビュしました。

とても偉い人と母から聞いて、きんちようしました。

が、英語であいさつしようと思つて、一生けん命練習しました。

実際に会ってみると、白いおひげに大きなおなかで「サンタ」さんのようなやさしい人でした。

国連総会のデスコト議長にインタビュしました。

とても偉い人と母から聞いて、きんちようしました。

が、英語であいさつしようと思つて、一生けん命練習しました。

実際に会ってみると、白いおひげに大きなおなかで「サンタ」さんのようなやさしい人でした。

国連総会のデスコト議長にインタビュしました。

とても偉い人と母から聞いて、きんちようしました。

が、英語であいさつしようと思つて、一生けん命練習しました。

実際に会ってみると、白いおひげに大きなおなかで「サンタ」さんのようなやさしい人でした。

国連総会のデスコト議長にインタビュしました。

とても偉い人と母から聞いて、きんちようしました。

が、英語であいさつしようと思つて、一生けん命練習しました。

実際に会ってみると、白いおひげに大きなおなかで「サンタ」さんのようなやさしい人でした。

国連総会のデスコト議長にインタビュしました。

とても偉い人と母から聞いて、きんちようしました。

が、英語であいさつしようと思つて、一生けん命練習しました。

実際に会ってみると、白いおひげに大きなおなかで「サンタ」さんのようなやさしい人でした。

国連総会のデスコト議長にインタビュしました。

とても偉い人と母から聞いて、きんちようしました。

が、英語であいさつしようと思つて、一生けん命練習しました。

実際に会ってみると、白いおひげに大きなおなかで「サンタ」さんのようなやさしい人でした。



発行者

日本非核宣言自治体協議会
(にほんひかくせんげんじちたいぎょうぎかい)
〒852-8117
長崎県長崎市平野町7番8号
長崎市平和推進課内
電話 095-844-9923
FAX 095-846-5170
E-mail info@nucfreejapan.com
Homepage
http://www.nucfreejapan.com

2009年
8月9日(日)
NAGASAKI PEACE
TIMES

田上市長による長崎平和宣言!!

被爆地・長崎へ来てください

アメリカのバラク・オバマ大統領が「核兵器のない世界」を目指すと言明しました。

私も、核兵器や戦争のない世界になってほしいです。そのためには、田上市長がおっしゃったように、被爆地・長崎や広島に来てみて下さい。

私は長崎へ初めて来て、たくさんボランティアの

人たちが平和を願って一生けんめい活動をしているのを見て感動しました。

田上市長に平和宣言をする前の気持ちを質問すると「必ず核兵器のない世界を作り出すという気持ちを持って人々の代表として話したいです」と答えて下さいました。

私は核兵器がなくなったら田上市長とあしくしゅをし

たいですが、市長はみんなと集まって花火をしたり祭りをして歌をうたって祝いたいそうです。

【池田夢花・浩二記者】



平和宣言文を読み上げる田上市長



献水をする被爆者代表の山川さん(左端)

どうぞ充分に飲んで下さい 64年前飲めなかった水

私は平和祈念式典の中の献水を取材しました。献水は、平和祈念像の前に、桶に入れた水を捧げます。なぜ献水をするかと言うと、あの日水を飲みたくても飲めず息絶えてしまった人が沢山いたからです。献水に使われる水は、人々が水を求め集まった五ヶ所から採水しています。

被爆者代表で献水をされた山川米雄さん(81)は「とにかくあの時一番欲しかったのは水でした。今日は何とぞ充分に水を飲んで下さい」という気持ちで献水しました。また「長崎だけでなく、世界中の人に核兵器廃絶をうたえてほしい」と強くおっしゃいました。山川さんが言われた「今の平和」をずっと守ってほしいです。

【相原咲笑・香子記者】

平和の祈りを込めた万灯

浦上川を照らすともしび



死没者追悼のため並べられた万灯

8月9日夜、浦上川で万灯流しが行われました。この事業は、原爆で亡くなった方をしのぶために行われています。船に約800個の灯ろうが列になつてつながら、美しく流れていました。

【川合花穂・秀治記者】



多くの家族連れが参加

スロープを下りてあの日へ 長崎原爆資料館

原爆投下までの経過について説明を受ける



人形のように転がる黒こげの死体の写真でした。ほんの一瞬で亡くなった命を考えるとだと思えました。

【相原咲笑・香子記者】



「アンネのバラ」について説明する増川さん(中央)

私は、ナガサキピースミュージアムに行きました。目に見えない平和をイメージした世界中の笑顔の写真の展示や、宙に向けて建っているモニメントがありました。そこで専務理

形ある平和を育てよう ナガサキピースミュージアム

事の増川雅一さんが平和活動について話をしてくれました。平和活動の一つである「アンネのバラ」は、ベルギーから来た一年中咲く黄色いバラのことで、形のある平和を伝えていくために、このピースミュージアムにバラ園を作り、それを各地に配って育ててもらいたいと教えてくれました。



【津久井芽衣・葉子記者】

私達は原爆資料館を取材しました。陽の入る明るい2階からスタートしました。円を描くようなスロープを下ると、暗い地下へと入りました。それは平和な現在から、あの日の長崎へタイムスリップするようでした。

天国へ届け 光と平和 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

「水」をたたえる水盤について説明する三田村さん



追悼空間に行くまでは暗かったけど、その場所に着くとすこく明るかったです。私の考えは、暗いのは心を落ち着かせるために、明るいのは天国まで平和を届けるためだと感じました。追悼空間には、今までに亡くなった方の名簿があります。それを見てすこく多いなと思いました。そんな原爆は二度と落としてほしくないです。

三田村さんの話を聞いて、戦争の悲しさや平和の



人形について説明する一瀬さん(左)

事なまず弟や家族に伝えて、それから一人でも多くの人に伝え続けていきたいと思えます。追悼平和祈念館には悲惨な資料や記録が残されていますが、その事実から逃げずに受け止める事が平和への一歩だと思

人形に託された作者の想い 旧香港上海銀行長崎支店記念館 頓珍漢人形

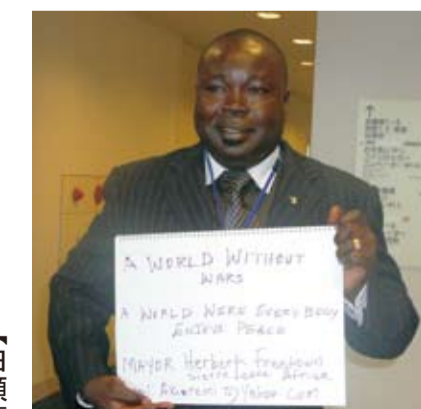
生前の久保田さんをよく知る長崎市の一瀬比郎さんは、約20万個作られた人形のうち約800個を集め、6年がかりで記念館の2階に常設の展示室を開設しました。一瀬さんは、久保田さんが、戦争の勃発、軍事兵器の開発といった人間の愚かさを表現した頓珍漢人形を守りたい、そして久保田さんの意思を後世に語り継いでいきたいと話してくれました。人形を通して平和を訴え続けた久保田さんの想い、様々な表情を見せる頓珍漢人形からそれを感じ取る事ができたと思

【河田千咲・寛史記者】

世界が平和になるために大切なことは何ですか？

第7回 平和市長会議総会

8月7日から4日間、長崎市で、核兵器のない世界を目指して平和市長会議が開催されました。会議に参加したみなさんにインタビューしてみました。



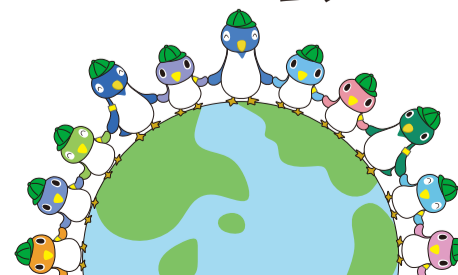
アフリカのシエラ・レオネのフリータウン市長のハーバートさん(メッセージ) 「誰もが平和を楽しめる世界を作ることが大事」



ニュージーランド・ワイタケレ市長のハーベイさん(メッセージ) 「核兵器をなくす事」と言ってくれました。ほかにワイタケレ市のバッジをくれました。



フランスの平和事務局に勤めるアレクシアさん(メッセージ) 「尊敬すること」「武器のない世界」「がまんすること」の3つを挙げてくれました。



世界中から集まった平和への思い



NGO・市民との交流(長崎ブリックホール) 平和市長会議には134か国・地域、3,047都市が加盟している(2009年8月3日現在)

【三浦巧明・岳史記者】



駐日アンゴラ共和国大使館・大使秘書のクリスティーナ・M・ギマランズさん(メッセージ) 若い彼等の迎える次世代にあたっては、子供達の笑顔が世界中にあふれるように、全ての核兵器をなくすことが必要です。



フランス・シャワシー・ル・ロワ副市長ジャン・ジョエル・エマンジャンさん(メッセージ) 7才の彼と62才の私が見る世界は違います。二度と雲の間から炎の光が降ることがない世界を実現し、次の世代の子供に見てほしいです。



イスラエル・ザミーア市長のサミュエル・ダーウィンさん(メッセージ) 全世界の人々が勇気づけあいながら、平和な世界が実現するように、全ての核兵器の廃絶を訴え続けていくことが必要です。

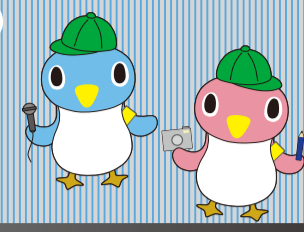


長崎県立長崎西高等学校



長崎市立滑石中学校

次の世代へのメッセージ



「身近な平和」の発信

滑石中学校からの想い

9日、滑石中学校で平和学習が行われました。まず「二重被爆」についてのビデオで理解を深め、その後、全校生徒が体育館に集まり、滑石中学校平和宣言が読みあげられ、平和祈念式典の様子がラジオで聞きながら全員で黙祷をしました。その後原爆資料館での紙しばいなど、各学年の平和活動の発表がありました。3年生の発表者の石丸沙依さん、数遙菜さん、森綾奈さんに取材しました。



真剣にインタビューに答えてくれました

青少年ピースフォーラム

全国から236名の小中高生が参加

未来へ架ける平和への願い



おもしろい平和宣言を作成する参加者たち

おばあちゃん、折り鶴を余江さんに託して、長崎に送っています。毎年平和を願い、折り鶴を折っていて、今年も7羽折り、来年は8羽折ると言っているそうです。



像を製作した余江さん

「振袖の少女」の碑前祭に参加するため長崎に来ていた、製作者の余江勝彦さんに取材をしました。余江さんによると、毎年、地元の中学生が像の掃除をしており、今年も滑石中学校の生徒も参加しました。像には全国から送られた折り鶴がかけられていて、大勢の人に親しまれています。その中でも、京都府綾部市の107才の



碑前祭に今年もたくさんの折り鶴が届けられました

長崎の空を舞う少女たち

折り鶴に込めた想い

余江さんによると、毎年、地元の中学生が像の掃除をしており、今年も滑石中学校の生徒も参加しました。像には全国から送られた折り鶴がかけられていて、大勢の人に親しまれています。その中でも、京都府綾部市の107才の

【和田昌美・千明記者】

ひばく者のゆめうけついで

爆心地に近い長崎西高からのメッセージ

私は、長崎西高等学校に行きました。長崎西高等学校では、放送部による生徒がつくった平和へのメッセージなどのうけついでを聞いた後、体育館で、ひばく者のお話を聞きました。終わってから、放送部のみなさんと平和について話しました。二年生の佐藤さんに「どんなおもしろい、放送したか」と聞いたところ、逆に「夢がありますか」と聞かれ、私は「象のしづく員になりたいです」と答えました。



放送部のみなさんと平和について話しました

勇気があれば……

被爆者講話を聞いて

平和会館で、恒成正敏さんにお話を伺いました。恒成さんは、三菱兵器工場で働いている時に被爆された。その時は「何がおこったかわからなかった」という。自宅に戻ると、いろいろな人達から水を求められた。水を飲ませる事も、水を採りにいく勇氣さえなかった事が、今も重く心に残っていると話してくれました。



被爆体験を語る恒成さん(右)

【和田昌美・千明記者】

また、今回のフォーラムの司会を務めた長崎県諫早市在住のボランティア小野亜耶さんは、平和とはみんなが笑って過ごせる事、今まで平和について学んだことをたくさんの人に伝えていきたいと話していました。

平和を伝えるかよこ桜

植樹募金委員会の夢と願い

城山小学校にあるかよこ桜の横で、平和案内人の田中安次郎さんに話を聞きました。かよこ桜は、原爆で亡くなったかよこさんのために



田中安次郎さん(かよこ桜の下で)

い、また思うだけではなく一歩ふみだすことが大切だと話してくれました。話を聞いて私は、戦争がこわいと思いました。また広島にも平和への思いがこもった桜があることにとてもおどろきました。

【沖本成美・恭子記者】



広島に植樹された桜

達によんでもらい、もう一度戦争について考えるよう



なまきつかけを作るために始まりました。

中には、今まで被爆体験を語らなかつた方が、この記事を読んで「自分が年を取ってしゃべれなくなるかもしれない」と思い、取材を受けていただけた事もあったそうです。

【川合花穂・秀治記者】

若い世代に語りつぐ

被爆体験を記録



新聞社への逆取材を行う川合記者

私は、長崎新聞社報道部長の森永玲さんに、新聞にけいさいされている「私の被爆ノート」について取材しました。このノートは1996年から、被爆者全員に話を聞くこととする目標を立てて始まり、今まで640名の方に聞き取りを行いました。この企画は、被爆者の思いを正確に聞き取り、記録と記憶に残し、戦争を体験していない若い人や子ども



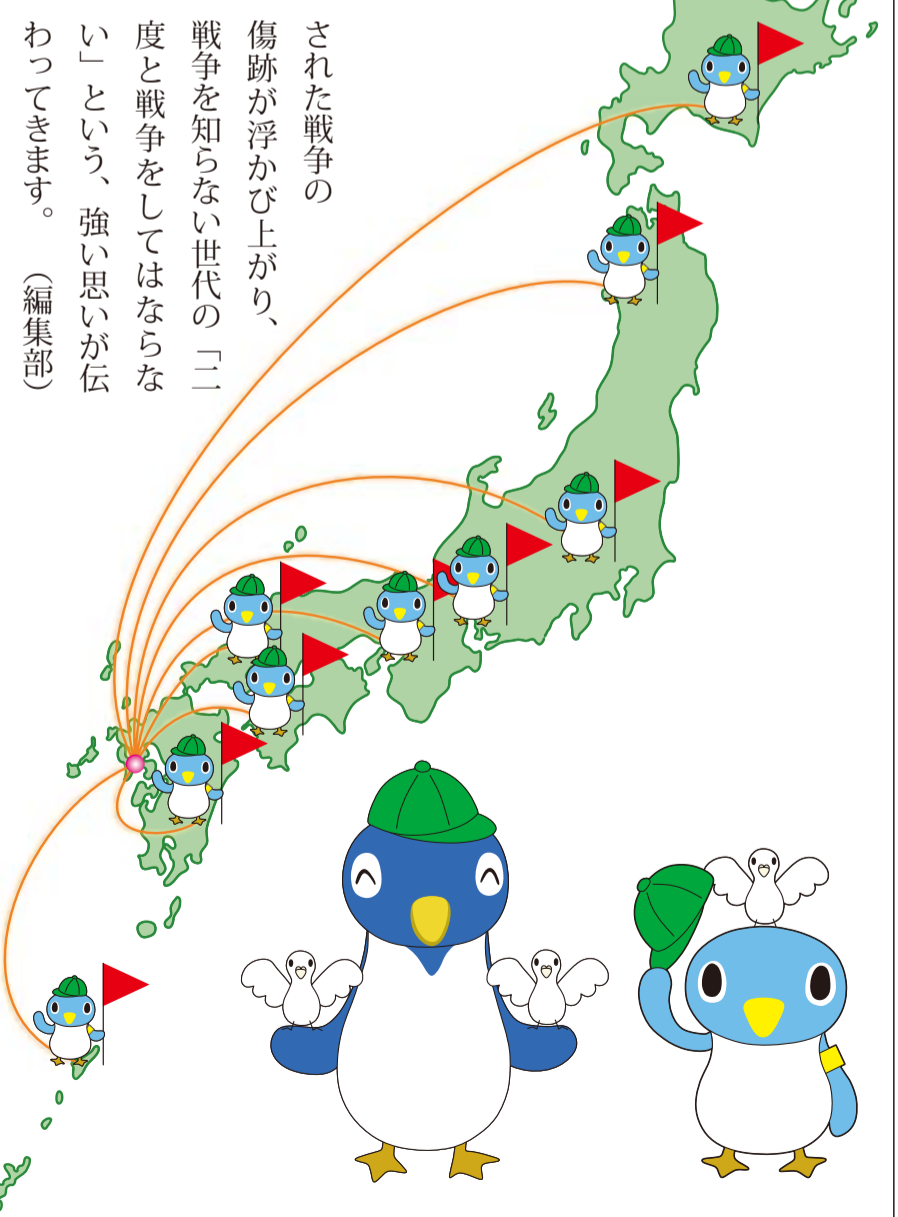
夏休み親子でたどる戦争の傷跡

今年も全国からおやこ記者9組が集結!

日本非核宣言自治体協議会が発行する「ナガサキ・ピース・タイムズ」おやこ記者新聞は、昨年の8月に創刊しました。8月9日に行なわれる長崎市の平和祈念式典を中心とした数日間を、小学生親子の視線で取材し新聞を制作します。

今年も全国から323組の応募があり、地域プロック別の抽選によって9組の親子記者が選ばれました。昨年は「平和の種を全国へ」が取材のテーマでしたが、今年は「親子で考える戦争と平和」をテーマに取材しました。親子記者の皆さんは、長崎に来る前に自分たちの地元に残る戦争被害の傷跡を取材し、記事を作成してきました。

広島と長崎に落とされた「原爆」は、第二次世界大戦被害の象徴のような出来事ですが、親子記者の記事からは、全国の至る所に残された戦争の傷跡が浮かび上がり、戦争を知らない世代の「二度と戦争をしてはならない」という、強い思いが伝わってきます。(編集部)



北海道 大樹町 戦争遺産「トーチカ」保存へ

北海道大樹町では、昨年9月に旭浜地区で、町でも最大規模の「トーチカ」が発見されました。



昨年発見されたトーチカ

「トーチカ」とは、コンクリートでできた戦争時に発見されました。大樹町では、昨年発見されたトーチカの周辺に「見学路」と「案内板」を設置、貴重な戦争遺産として保存し、後世に戦争の歴史を伝えていきたいとしています。

秋田県 秋田 秋田の空襲と平和活動

昭和20年8月14日午後10時30分、秋田で終戦前日に空襲がありました。



秋田の空襲と平和を語りつく高橋さんと一緒に

4時間に渡り、12、047個の爆弾が落とされ、92人が亡くなり2000人がケガをおきました。200世帯が被害を受けました。被爆市民会議事務局の高橋茂さんが、終戦前日の惨劇を色々と語ってくれました。

現在も毎年8月14日には平和祈念式典が行われ、平和を訴えています。

埼玉県 行田市 埼玉県平和資料館を取材して

平和資料館は、戦争体験の風化を防ぐため、当時の生活用具や戦争に関する資料を収集展示したり、戦争体験者の証言等を記録するなど、さまざまな方面から



社会科見学のコースにもなっています



展示品の前には詳しい説明が自由に手にとれるように置いてあります。

愛知県 半田市 半田市の平和への取り組み

7月17日、半田市役所で、私の町の平和活動の一つ、パネル展示(7月22日〜8月22日開催)と戦争の跡地を取材しました。



平和パネル取り付けの様子

おける防衛陣地のことで、大樹町には現在15個のトーチカが確認されています。トーチカは戦時中敵に見えにくい林の中などに造られており、昨年発見されたトーチカは、周辺の林を伐採した際に偶然発見されたものでした。

中島飛行機工場跡や、道路になっていく滑走路跡、飛行機の銃弾のあとが残る赤レンガの建物があります。

大阪府 枚方市 みんなに知ってほしい事

枚方市には、戦争で生き残った木の二世があります。



被爆アオギリ 2世

兵隊さんのかばん、一枚方市にこんないろいろな物が残っているとは、知らないと思います。

一枚方市にこんないろいろな物が残っているとは、知らないと思います。

広島県 広島市 折り鶴にこめた少女の祈り

7月22日、広島市内の平和公園にある原爆の子の像を訪ねました。



原爆の子の像

患い病気の回復を願って薬の包み紙などで千羽づるを折り続けましたが、わずか12才で亡くなりました。生きたいと願った禎子さんの思いが広く伝えられ、折りづるは、平和のシンボルとなったのです。

高知県 高知市 高知空襲の証拠

地元高知市の戦争当時を知るために、高知空襲を体験した岡村さん(平和資料館草の家館長)にお話を伺いました。



実際にB29爆撃機から落とされた焼夷弾を説明してくださる岡村さんと夢花記者

岡村さんは高知空襲の体験、戦争当時の日本の状況について詳しく話をしてくれました。そういった話を聞くと平和は決して当然ではない、事実を知って二度と起こさないように努力し続ける事が大事だと気づきました。(池田夢花)

宮崎県 日向市 防空壕を二度と使わないで

7月22日、僕は日向市役所の人と、お父さんと一緒に、米の山の防空壕を取材に行きました。



緑の中の防空壕

林の中を歩いて行く途中、大きくて固い木が生え、穴が見え、その横に防空壕がありました。中は広く、50人ぐらい入れそうです。中に入ってた人は食べものも水もないし、辛かったらうなと思いました。でも、「ここにいれば助かるんだ」と思っていたんだらうなと思いました。

沖縄県 那覇市 地上戦の現実

私は、ひめゆり学徒隊生存者の宮良ルリさんの話を聞きました。



元ひめゆり学徒隊生存者講話

みんな死ぬときに「てんとうへいかパンザイ」と言うように教えられていたの聞いたかったです。お母さんや、お父さんとはなれて長いせんそうの中いきてきたので、さいごに会いたかったのだと思います。

これから大人になる、赤ちゃんや、小学生や、中学生の人たちが、けんかをやめて、せんそうをもう二度とおこらないようにするには、みんながなかよくなれば、いいと思います。





平和の学び舎長崎

北海道 河田千咲・寛史記者

今回初めて長崎に来て、取材を通じて戦争の悲惨さを改めて感じました。長崎はとても暑く、また初めての取材という事で、最初は戸惑いもありましたが、同世代の子供達への取材もあり、平和への想いが芽生えてきたように思います。



平和を辿る夏の夏

秋田県 相原咲笑・香子記者

この時期の長崎を訪れ、若い方から被爆者の方まで平和への思いの強さを感じました。長崎で何が起こり死んでいったのか、生きてきたのかを学びました。ここからが私達の本当の役割となりますね。親子夏の夏に心から感謝です♥



親子記者を終えて

埼玉県 田頭慎平・浩美記者

「平和市長会議」の取材にうかがい、たくさんの方々が平和についてのメッセージをくださいました。国や言葉は違っても、平和に対する気持ちはみんな同じなんだと実感しました。



「平和」を学んだ4日間

愛知県 川合花穂・秀治記者

私達は、この行事を通して改めて「平和」について考えるようになりました。たくさんの方々の原爆のお話を取材し、原爆のおそろしさを初めて実感しました。暴力のない世の中が続くといいなと思いました。



みんなに伝える事

大阪府 和田昌美・千明記者

文字数が決まっています、いろんな話をいっぱい聞いても、まとめて自分の気持ちを伝えるのが難しかったです。記者の体験と戦争についての勉強ができて、とてもいい経験をする事ができたので、戦争の恐ろしさを伝えていきたいです。



長崎で平和の取材ができたヨ

広島県 沖本成美・恭子記者

取材と記事作成で毎日いそがしかったけど平和のために活やくされてる方々の話を聞くことができてよかったです。世界中の人が、だれにでも家族と同じように愛と思いやりを持って生きていけたら戦争がなくなると思いました。



日本一温かい長崎

高知県 池田夢花・浩二記者

いっぱい病気をしてもみんなが助けてくれて記事を書くことが出来ました。ありがとうございました。子供がこんなに真剣に考える事が出来るなんて驚きました。長崎の人々全員に感謝します。また必ず長崎の地に立ちます。



親子記者の思い出

宮崎県 三浦巧明・岳史記者

平和の鳩を取材して、初めて鳩に触った時は少し怖かったけど、羽がとても柔らかくて気持ちよかったです。平和市長会議では、沢山の市長さんに英語で質問してすぐ緊張したけど、とっっても楽しく取材することが出来ました。



学生ボランティア大活躍!

今年度はボランティアスタッフとして、長崎県立大学シーボルト校国際情報学部情報メディア学科の8名の学生のみなさんに参加していただきました。(コメントは写真右上から左下の順)



取材をサポートしてくれた学生のみなさん

- ◆ 世界中の平和に対する思いを感じました 辻井健
- ◆ 4日間の間に貴重な体験をさせてもらいました 清田雅嗣
- ◆ 2日間、平和に正面から向かうことができた 藤本明宏
- ◆ 取材というアナログ行為の重要性を再確認出来た 石田慶介
- ◆ 微力ながらお手伝いができ嬉しく思いました 小林菜穂香
- ◆ 子供達が平和を広げてくれると嬉しいです 久保平ゆかり
- ◆ 改めて命の尊さを感じました 前田敏宏
- ◆ 原爆を知る事が平和への一歩だと学びました 村田あゆみ

事務局だより

今年も昨年に引き続き、北は北海道、南は沖縄からおやこ記者がやってきました。長崎のいろんな平和活動を大学生のお兄さんやお姉さんにサポートしてもらい、暑い中、一生懸命取材してくれました。今年はおやこ記者の地元の平和活動もあわせて紹介していきます。きつと、いろんな平和への想いが届いたと思います。今回新聞に載らなかつた取材風景の一部は非核協のホームページで公開します。よかったらのぞいてみて下さいね。